

## 学界の動向

# 平成 23 年度日本遠隔医療学会学術大会 (JTТА2011 ASAHIKAWA) 報告

廣 川 博 之\*

平成 23 年度日本遠隔医療学会学術大会 (JTТА2011 ASAHIKAWA) を、平成 23 年 10 月 14 日 (金)、15 日 (土) の 2 日間、旭川グランドホテルにて、旭川医科大学吉田晃敏学長を大会長として開催しました。今回は、日本ルーラルナーシング学会 (野口美和子理事長) 第 6 回学術大会 (大会長: 北村久美子旭川医科大学教授) と同時開催となりました。

この年の 3 月に東日本を襲った大震災からの復興計画で、遠隔医療分野も大きな役割を担うことが期待されています。このような状況下、本学会では、今一度わが国の遠隔医療の現状を把握し、その上で遠隔医療の新たな姿を議論したいとの思いから、テーマを「遠隔医療の最前線」としました。

テーマに沿い、吉田晃敏大会長が「ICT と医療の融合」と題した大会長講演でこれまでに旭川医大で行われてきた遠隔医療を紹介し、新たな取り組みについて熱く語りました。また、遠隔医療の原点とも言えるテレパソロジー、テレラジオロジー、テレケア、テレカンファレンス・コンサルテーションに関する 4 つのシンポジウムを行い、各分野における現状と将来像について、議論を深めて頂きました。さらに 3 つの分科会報告、34 の一般演題、2 つのランチョンセミナーなど多くのご講演、ご発表を頂きました。

懇親会は学会の楽しみの一つではありますが、今回は動物の行動展示で有名になった旭山動物園での開催と

なりました。1 日目の講演を 15:45 と早々に終了し、動物園閉園後、特別に入園させて頂き、夜の動物園見学、そして園内にあるレストランで情報交換会を行いました。懇親会はチャーターバス移動のため事前登録制にしていたのですが、出発直前に何とか参加させてほしいという要望が多数あり、急遽参加人数を増やさざるを得なくなりました。入場券や料理追加等の手配で多少開始が遅くなりましたが、料理が足りなくなることもなく、ご参加頂いた方々には、十分楽しんで頂けたかと思います。

参加者は 259 名で、日本ルーラルナーシング学会会員の方々も多くご参加頂きました。全国的な学会を旭川で開催すると、参加者は首都圏開催の半分になるといわれていますが、展示関係 156 名を含めると、415 名と大変多くの方にご参加頂きました。日本ルーラルナーシング学会との同時開催ということで、土曜日の午前中に、大会長講演の他、シンポジウムも行う予定でした。しかし、演者の都合等でいくつかの一般演題を土曜日の午前中に持ってこなければならず、シンポジウムに出席できず残念に思われた方々が大勢いらしたと聞いています。

今回、本学関係者の方々のご指導、ご協力を頂戴し、本大会を無事終えることが出来ました。この場をお借りし、深く感謝申し上げます。

---

\*旭川医科大学 経営企画部